

令和5年度 第1回認知症対応型通所介護幸寿苑 運営推進会議報告書

開催日時	令和5年 10月 24日(火) 14:00~15:30
開催場所	特別養護老人ホーム幸寿苑 第一会議室
参加者 (9名)	ご利用者様の家族代表様 認知症知識を有する方 グループホームセンター長様 地域包括支援センター 管理者様 特別養護老人ホーム幸寿苑 施設長 特別養護老人ホーム幸寿苑 主任生活相談員 幸寿苑短期生活介護 主任生活相談員 幸寿苑居宅介護支援事業所 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 副主任生活相談員
司会進行	副主任生活相談員
議事録	管理者

1. 当日の次第

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 管理者あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 協議
- (5) その他
- (6) 閉会のあいさつ

2. 会議の内容

1- (3) 委員紹介

二年半ぶりの開催、地域包括センター-管理者様の交代もあり、各役員自己紹介を行う。

2- (4) 協議

① 令和4年度事業報告について

委員から「利用者の男女比率はどうか？」

管理者から「女性の割合が圧倒的に多く、現在15名中男性は二名のみ」

管理者から「できるレクリエーションに限りがある」

委員から「音楽に合わせて立ったり歩いたり、ADL維持につながることをやって

みてはどうか。認知症の方は、食に通じることや、糸を丸めるなどの単純な軽作業も好んで行う傾向がある。」

② 事例報告について

委員から「問題ケースについては、デイサービス以外の第三者に相談する方法もある。服薬に対する家族の不安の思いにも沿わなければならないが、接遇で対応するのも限界はある。」

委員から「家族へ口頭で伝えにくい時には映像で伝えている。サービス担当者会議とは違う個別ケア会議を開くことも問題解決への糸口である。認知症の方は回答を求めていることが多く、言いたい気持ちを引き出すことで、繰り返しを減らすことも可能である。個々の感情に付き合うのは難しいが、ルーティン業務を後回しにすれば時間を作ることができる」

3 - (5) その他

各委員から感想をいただく

- ・コロナ感染対策がまだまだ大変でしょうが頑張ってください。
- ・認知症対応型デイサービスを継続は何かと大変だと思いますが、悩みの相談にのっていくので、自信を持って続けて欲しい。
- ・ショートステイでもケアマネジャー、スタッフ、家族それぞれの思いの違いに悩むこともあったため、個別ケア会議等を開催し焦らず勧めて行きたいと思いました。
- ・デイサービスではタイムリーに状況がわかるが、施設では認識のずれが生じやすく、どう伝えていくべきかが課題だと感じます。多職種で短時間でも良いので話し合う時間を持つべきだと感じました。
- ・家族への伝え方が本当に難しいと感じています。今回の皆さんのご意見を参考に、対応に当たりたいと思います。
- ・久しぶりの外部の方との会議に参加し、井の中の蛙になることの怖さを感じました。情報の共有の重要性も再認識できました。

令和5年度 第2回認知症対応型通所介護幸寿苑 運営推進会議報告書

開催日時	令和6年 3月 25日(月) 14:30~15:30
開催場所	特別養護老人ホーム幸寿苑 第一会議室
参加者 (8名)	ご利用者様の家族代表様 認知症知識を有する方 グループホームセンター長様 特別養護老人ホーム幸寿苑 施設長 特別養護老人ホーム幸寿苑 主任生活相談員 幸寿苑短期生活介護 主任生活相談員 幸寿苑居宅介護支援事業所 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 副主任生活相談員
司会進行	副主任生活相談員
議事録	管理者

2. 当日の次第

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 管理者あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 協議
- (5) その他
- (6) 閉会のあいさつ

2. 会議の内容

1-(4) 協議

① 令和5年度下期事業報告について

管理者から「認知症状の重度化に伴い行事の実施が困難になってきている。」

委員から「自施設では18名程度の利用者様がサークルになってたたいてポンなどの単純なゲームを行っているが、ルールは度外視している。」

② 事故・ヒヤリハット報告について

委員から「事故が起こった際に、家族への報告はどうしているのか」

管理者から「家族へはタイムリーに電話連絡を行っており、送迎の際にも再度報告、謝罪している」

委員から「健康で長生きしたい70代が多くなっているため、介護予防の事業が重要になってくると思う。」

「SSでも異食行為はあるが、服薬により落ち着いている。家族と服薬についても検討してみてもどうか。」

「認知症状が軽度の内にサービス開始できると良い。認知症状進行予防のためリハビリも重要となってくる。」

「家族は介護に休息を求めるため、泊りのサービス希望が多くなっている」

③ 入浴拒否の事例について

委員から「足湯などを試してみて、浴室へ行く習慣をつけてみてはどうか」

「医者に行くから。着替えをしましょう。など、入浴が嫌なものにならないような声掛け工夫する。」

1 - (5) その他

各委員から感想をいただく

- ・入浴の拒否については自宅での様子はどうなのか、家族の協力を得ながら進めていってほしい。
- ・施設でも同様の悩みはあるため、仕方ないと思わず、職員間で意見交換、再検討していきたい。
- ・情報をいただけて、振り返る機会が持てた。家族の意見の大切さを再認識できた。
- ・デイサービス間での検討には限界があるため、外部からの意見を頂くことが大切だと感じた。
- ・家族の介護を続けているが、自分の衰えを感じる。老後は誰にでも訪れるので、自己メンテナンスが大事だと感じた。
- ・困難事例に直面したら、考えることを止めない。アンガーマネジメントをしっかりと行い、こうあるべきを前面に出しすぎずに介護することが大切。